

## ア 事前研究会からの変化

### (1) ゲーム(第4学年 ゴール型ゲーム:タグラグビー)

- ・ タグラグビーの経験が全くないという児童の実態や単元序盤ということもあり、ルールやタグラグビーならではの動きに慣れていなかった。毎時間の練習や掲示物の工夫によって、ゲームを理解し、動くことができるようになった。また、「なぜ、三角形の隊形で攻めるのか。」というように、ボールを持っていないときの動きの重要性を考えさせ、指導していくことで、得点するために必要な動きについて身に付けさせることができた。
- ・ コートの使い方やタブレット撮影の場所など、ゲームを行う環境を変更した。課題解決のために、より活動しやすく、児童らの力を発揮しやすい環境となった。

### (2) 体づくり運動(第5学年 体の動きを高める運動)

- ・ 事前研究会では、3つの基になる動きを取り扱ったが、運動が広がりすぎたため、動きを高めるためのポイントをおさえるのが難しかった。そこで、基となる動きを縄とボールを使った動きの2つに絞った。動きが精選されることで、学級全体でのポイントの共有が可能となり、教師自身も児童の評価をしやすくなった。
- ・ 学習指導過程を変更し、導入段階での指導事項を精選することで、運動に取り組む時間や話し合う時間を十分に確保することができた。
- ・ Wi-Fi の環境がよくなかったので、振り返りはパソコン入力ではなく、ワークシートで行った。ICT の活用は、動画撮影のみとした。

## イ 視点に対する最終的な成果

### (1) ゲームや運動を通して、児童が主体的に活動できる指導計画となっていたか。

#### 「ゲーム」

- ・ 3対2や3対3の少人数での活動(ゲーム)は、コートの広さと人数のバランスがよく、攻撃側の優位性も保たれ、主体的に活動できた。また、音楽を活用したり、掲示資料を工夫したりすることで、毎時間同じ流れで活動させた。教師の指示が減り、児童が見通しをもって活動していた。
- ・ 作戦の話合いや練習の時間を2回設けたり、1単位時間の中で一人一人の評価をし、付箋で示したりすることで、本時の目標である作戦の選択や変更につながった。

#### 「体づくり運動」

- ・ 基になる動きを確認し、本時の活動に入るとともに、2つの動きに絞ったことで、動きの組み合わせ方や動きのポイントを考えやすくなり、話合いが活発に行われていた。
- ・ 掲示資料は、「リズム」や「調整力」等のキーワードに加え、児童の言葉を用いたポイントが示してあり、話合いや振り返りの中でも、これらの言葉を意識することができていた。

### (2) 運動が苦手な児童に対して、適切な手立てがとられていたか。

#### 「ゲーム」

- ・ 作戦シート(jamboard)を活用したり、動画を撮影し、視聴したりすることで、ゲーム中に起こる状況を具体的にイメージしながら、作戦を立てることができていた。
- ・ ノックオンはとらない等のルールを簡易化することで、運動が苦手な児童も安心して動くことができた。

#### 「体づくり運動」

- ・ ICT を活用することで、自分たちの姿を確認し、課題や成果(動きの高まり)を視覚的に把握することができた。
- ・ 他のグループの動きの組み合わせを紹介し、課題を共有することで、前時までの動きを振り返ったり、課題解決のために様々な方法を試したりすることにつながった。

# 令和3年度 第62回宮崎県学校体育研究発表会 全体会(午前の部) 小学校部会授業研究会の記録

記録者 都城市立 川東小学校 松元 里穂

## 授業のふりかえり

【第4学年 ゲーム】 高崎小学校 末原 義国先生

- 2試合目の評価ができていない。どう評価すればよかったか。
- 個人のがんばりを付箋に書いて渡した。1試合目後は渡せたが、最後にもう一回(2試合目後)渡しておけばよかった。

## 質疑応答

都城市立乙房小学校 音山先生

Q. チームによって作戦シート(ジャムボード)の形式が違った。教師の方でそれぞれ提示したのか。

A. 教師から作戦シートの基本の型を提示した。回を重ねるごとに、子どもたちから工夫したいとの意見が出た。

宮崎市立国富小学校 高橋先生

Q. 普段は、めあての立て方をどのようにしているのか。

A. 前時に、次はこのようなことをしていくと提示していった。

Q. 規則(ルール)がどのように変わっていったか。

A. 子どもたちと一緒に考えている。どうすれば点を取れるのかという視点で規則(ルール)を変更した。変更したものについては、黒板等に掲示している。

## グループ協議についての意見

延岡市立南方小学校 田爪先生

- 協議の中で「タブレット」という言葉が多く聞かれた。ICT活用の善し悪しがある。タブレット活用法について検討していく必要がある。

指導講評

指導助言者	内容
<p>南九州大学 人間発達学部 宮内 孝 教授</p>	<p>○ <u>苦手な児童等の変容について</u>            単元を通して、子どもたちの動きがすごく変わった。ラグビーは他のゴール型ゲームと違い、ボール保持者よりも後方にいなければならない。単元前半では、苦手な児童がどうしていいかわからないようだった。ボールをパスしてもらえ位置にいなかった。今日は、ゲームに慣れて、動きを理解してきているようだった。苦手な児童は、ゲーム形式に慣れるのに時間がかかる。その後、戦術的な理解、技能が身についてくる。</p> <p>○ <u>タスクゲームとメインゲームの違いについて</u>            本時はタスクゲームではなく、練習であった。タスクゲームは、ボールを持たない動きを学習させることが目的である。ボール操作や状況判断を易しくする。</p> <p>○ <u>主体的・対話的な学びについて</u>            子どもたちは、「ゲームに勝ちたい!」ということを動機付けとして作戦を立てる。チームで作戦を立て、自己評価し、修正をする過程が主体的・対話的な学びとなる授業構成であった。結果的に「分かった」「できた」「楽しい」を実現していくのが体育の授業である。友達とかかわりながら分かってできる、できて分かる、その結果、運動の楽しさを味わうというのが、体育の授業に求められていることである。</p> <p>○ <u>ゴール型、ラグビーの特性について</u>            世界にある多種多様なボール運動を学ばせることは不可能である。攻め方・守り方の共通項で〇〇型という分類がされている。            ゴール型は、仲間と連携してボールをゴールへ運ぶものである。さらに、ラグビーでは、前にパスをしてはいけないというルールは破ってはいけない。しかし、後方にパスするという経験が少ない。ゴール型運動に慣れるのに時間がかかることを想定して単元計画を作成する必要がある。</p> <p>○ <u>作戦について</u>            作戦の分類としては、突破する作戦とスペースをつくる作戦がある。個人的な作戦からチームの作戦へというのが子どもたちの学びの流れである。スペースをつくる作戦については、「とばし」「クロス」「意図的にタグを取られる」の3つに分類できる。教師が整理・分類して提示するとよい。評価は、ゲームのファーストプレイ時に行う。</p>

# 小学校部会 授業研究会(ワークショップ形式)

1 日程 10:20~11:30(70分)

11:20~11:30	10:28~11:20	10:22~	10:20~	
10分	52分	6分	2分	時間
指導助言 ○ 宮内 孝 教授(10分)	○ 協議内容の交流(10分) ○ グループ発表 (5分) 柱2 指導方法の工夫 工夫 柱1 カリキュラム・マネジメントの工夫	○ 研究部による協議の行い方の説明 ○ グループ協議・質疑応答 ・ 授業① (タグラグビー4年)	○ 授業①(ふりかえり3分) ・ 末原先生(高崎小) ○ 授業に関する質疑・応答3分	指導助言者紹介(2分) 内容
着席	周回	着席	着席	授業者 助言者

## 2 授業参観の視点

柱1 カリキュラム・マネジメントの工夫

- ゲームや運動を通して、児童が主体的に活動できる指導と評価の計画となっていたか。
- ・少人数での活動(ゲーム) ・単元前半で、技能面を重視した活動

柱2 指導方法の工夫

- 運動が苦手な児童に対して、適切な手立てがとられていたか。
- ・役割を踏まえた作戦を選ぶことのできる手立てとなっていたか。

## 3 付箋の活用

① 下記を参考に付箋に書き込む。

- グループ協議に活用します。

良かったこと  
成果  
(青)

協議したいこと  
課題  
(赤)

質問したいこと  
疑問  
(黄)

## 4 グループ協議の進め方

自己紹介1分 流れ確認1分 協議の柱に沿って協議を行う。

① グループごとに座り、簡単に自己紹介をする。(勤務校、名前、一言)

※ 各グループの司会は各班の班長の先生(受付時に依頼された先生)

② 協議用紙(A3の用紙2枚×2セット)に、協議の柱から成果と課題について付箋を貼りながら、意見を出し合っていく。話し合いながら、同じキーワード・カテゴリーで分ける。

③ 質疑応答は、協議の最中に授業者・指導助言者がテーブルを周っている際に随時行う。

⑤ グループ協議終了後、他のグループを見て回る時間を6分程度とる。

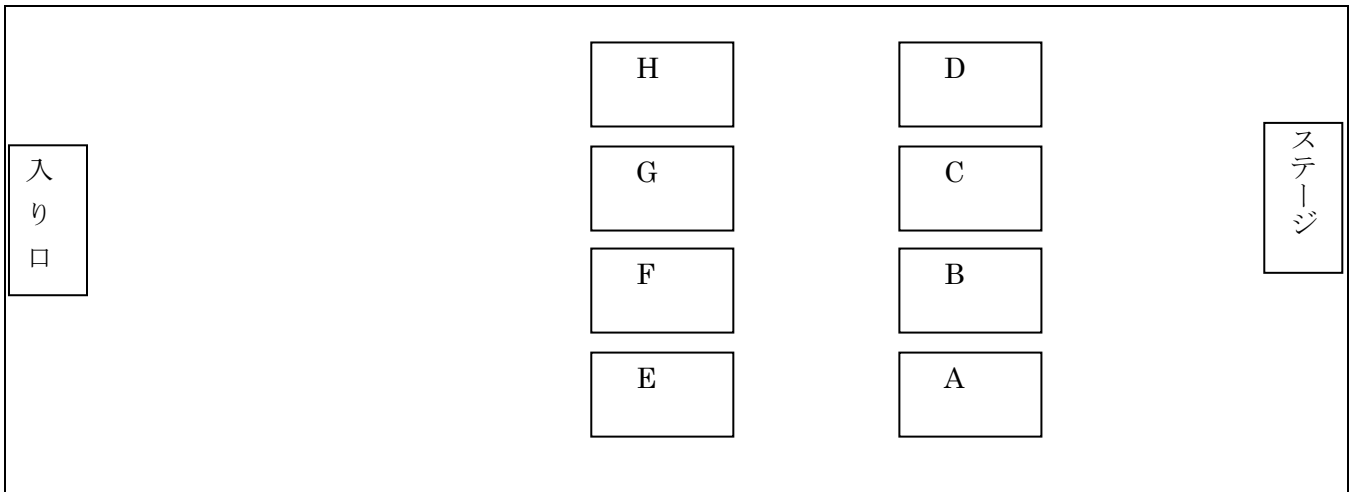
※ グループ協議で話し合ったことをもとに、ワールドカフェ方式で説明する。

※ 発表者3名を選んでおく。

⑥ 最後に指導助言をしていただく。

⑦ グループ協議後にグループで話し合った資料については、研究協議後に写真撮影する。

## 5 会場図



## 授業研究会 会次第

- 一、指導助言者紹介
- 二、協議方法説明
- 三、授業者ふりかえり
- 四、グループ協議 質疑応答
  - 柱1 カリキュラム・マネジメントの工夫
    - ・ ゲームや運動を通して、児童が主体的に活動できる指導と評価の計画となっていたか。
  - 柱2 指導方法の工夫
    - ・ 運動が苦手な児童に対して、適切な手立てがとられていたか。
  - 協議内容の交流
  - グループ発表
- 五、指導助言
  - 宮内 孝 教授

# 令和3年度 第62回宮崎県学校体育研究発表会 全体会(午後の部) 小学校部会授業研究会の記録

記録者 都城市立 有水小学校 新田 尚大

## 授業のふりかえり

【第5学年 体づくり運動】 明和小学校 宮田 翔馬先生

- めあての確認を忘れてしまった。
- ドリブルを使った動きがなかった。声掛けが不足していた。
- ポイントを意識しすぎて、反対にできなくなる班があった。ポイントの拾い方を考えさせればよかった。

## 質疑応答

日向市立財光寺小学校 楠田先生

Q.子どもたちの目指す姿は、どんな姿だったのか。(ゴールイメージ)

A.タブレットを活用し動きを比較させ、ポイントを踏まえて実践したことで、できるようになったということが子どもたちから出てくること。

高鍋町立高鍋西小学校 福田先生

Q.振り返りのワークシートについて、イラストと文の2つを書かせた理由は何か。

A.言葉だけでは表現できない子や絵が得意な子がおり、様々な方法で自分の意見を伝えやすくするための手立てとして今回のようなものにした。

Q.まとめの時間を多くとったのはなぜか。

A.自分の考えをまとめ、書くことに時間がかかる子どもたちへの配慮である。また、子どもたちの言葉をもとに動きのポイントをまとめたいという考えがあった。子どもたちから、より多くの意見を出させるために時間を確保した。

都城市立高城小学校 山下先生 ・ 都城市立高崎麓小学校 馬場先生

Q.班編成はどのように行ったのか。偏りがあったように感じた。

A.本単元の2時間目の3つの基の動きを行った時に、タブレットで「どの動きが1番難しかったか」というアンケートをとり、苦手な種目のバランスや人数を考えて班編成を行った。

延岡市立南方小学校 田爪先生

Q 動きを組み合わせた運動から基の動きに戻った時、子どもたちがどれくらいできるようになったのか評価の仕方については

A 基の動きに戻った時に、回数等の数値的な記録の変化で捉えることもできるが、「動きがスムーズになった」や「前の時間よりも上手にできた」などの子どもたちの感覚的な部分がワークシートの中に出てきてほしいというものが大本にある。一番は、児童自身の感覚的な部分を大切にしたい。しかし、それだけでは体づくり運動の評価として十分ではない。このことは、都城・三股地区の研究課題でもあるので、よりよい評価方法については、他地区の取組等も参考にしたい。

## グループの意見

都城市立笛水小中学校 永野先生

- 子どもたちは、これまでの時間に出てきた動きのポイントを言葉で伝えながら、主体的に活動できていた。
- ICTの活用の仕方が課題になる。どんなことを見付けるために撮影をするのか、視点を与えるとよい。また、他のグループの動きを撮りに行くと、互いのよさを知る手立てにもなる。

三股町立三股西小学校 小西先生

- グループ活動では8班に分かれていたので、それぞれの班で多様な動きを考えられる半面、できる子とできない子の差があった。グループ同士の対話の場面があってもよい。
- ICTの効果的な活用はまだ難しい。比較をさせたり、遅延カメラを使ったり、様々な方法を試していく必要がある。

## 指導講評

宮崎県教育庁スポーツ振興課  
堀内 潤一郎 指導主事

### ○ 体づくり運動について

体づくり運動は、1年生から4年生までの多様な動きをつくる運動から、5・6年生、中学生に向けて体の動きを高める運動へと変わっていく。高学年においては、体力の必要性、運動の行い方についての知識を理解させること、4つの動き（柔軟性・巧緻性・筋力・持久力）を高める運動を実際に行うことが目標である。

### ○ 本時の目標について

本時は、巧みな動きを重点に指導されている。タイミング・バランスよく動く、リズムカルに動く、力を加減をして動くものが例示されている。これらを高めるために、どのようなポイントを意識すればよいかを考える時間であった。

### ○ 2つの組み合わせた動きについて

初めに取り上げた組み合わせた動き「縄の中で自分自身がボールを投げ上げてキャッチする」のは難しい。次に取り上げた組み合わせた動きは、「ボールを外（友達）から投げ入れてもらう」もので、これならできるという子どもたちの発見があった。

### ○ 動きの高まりについて

ボールの投げ上げとキャッチという動きの方が、縄を跳ぶことよりも難しい。そのため、だんだん縄を飛ぶことを意識しなくなった。基になる動きに戻ったとき、無意識に縄を跳んでいる様子からも、動きが高まったと言えるのではないかと。

まとめの際に、「声掛けを上手くすると跳べる」「リズムを覚えて跳んだ」というものがあった。子どもたちは、縄を跳ぶポイントを見つけたので、動きに生かしていけば、基になる動きからの高まりも期待できる。

### ○ 体づくり運動のゴールイメージについて

他の運動領域に比べ、体づくり運動のゴール、理想とする姿はイメージしにくい。地区の研究を進める際に、文科省が出している学校体育実技指導資料やコロナ禍における体育指導についての動画も参考にしてほしい。

# 小学校部会 授業研究会(ワークショップ形式)

1 日程 14:45~15:55(70分)

15:45~15:55	14:53~15:45	14:47~	14:45~	
10分	52分	6分	2分	時間
<p>指導助言</p> <p>○ 堀内潤一郎 指導主事(10分)</p>	<p>○ 協議内容の交流(10分)</p> <p>○ グループ発表 (5分)</p> <p>柱1 カリキュラム・マネジメントの工夫</p> <p>柱2 指導方法の工夫</p> <p>○ 研究部による協議の行い方の説明</p> <p>○ グループ協議・質疑応答</p> <p>授業① (体づくり運動 5年)</p>	<p>○ 授業①ふりかえり3分</p> <p>・宮田先生(明和小)</p> <p>○ 授業に関する質疑・応答3分</p>	<p>指導助言者紹介(2分)</p>	<p>内容</p>
<p>着席</p>	<p>周回</p>	<p>着席</p>	<p>着席</p>	<p>授業者 助言者</p>

## 2 授業参観の視点

<p>柱1 カリキュラム・マネジメントの工夫</p> <p>○ ゲームや運動を通して、児童が主体的に活動できる指導と評価の計画となっていたか。</p> <p>・三つの「基になる動き」(ラダー、ボール、なわ)</p> <p>柱2 指導方法の工夫</p> <p>○ 運動が苦手な児童に対して、適切な手立てがとられていたか。</p> <p>・体の動きを高めるために、動きや運動条件を工夫しやすい手立てとなっていたか。</p>
---

## 3 付箋の活用

- ① 下記を参考に付箋に書き込む。
- グループ協議に活用します。

良かったこと  
成果  
(青)

協議したいこと  
課題  
(赤)

質問したいこと  
疑問  
(黄)

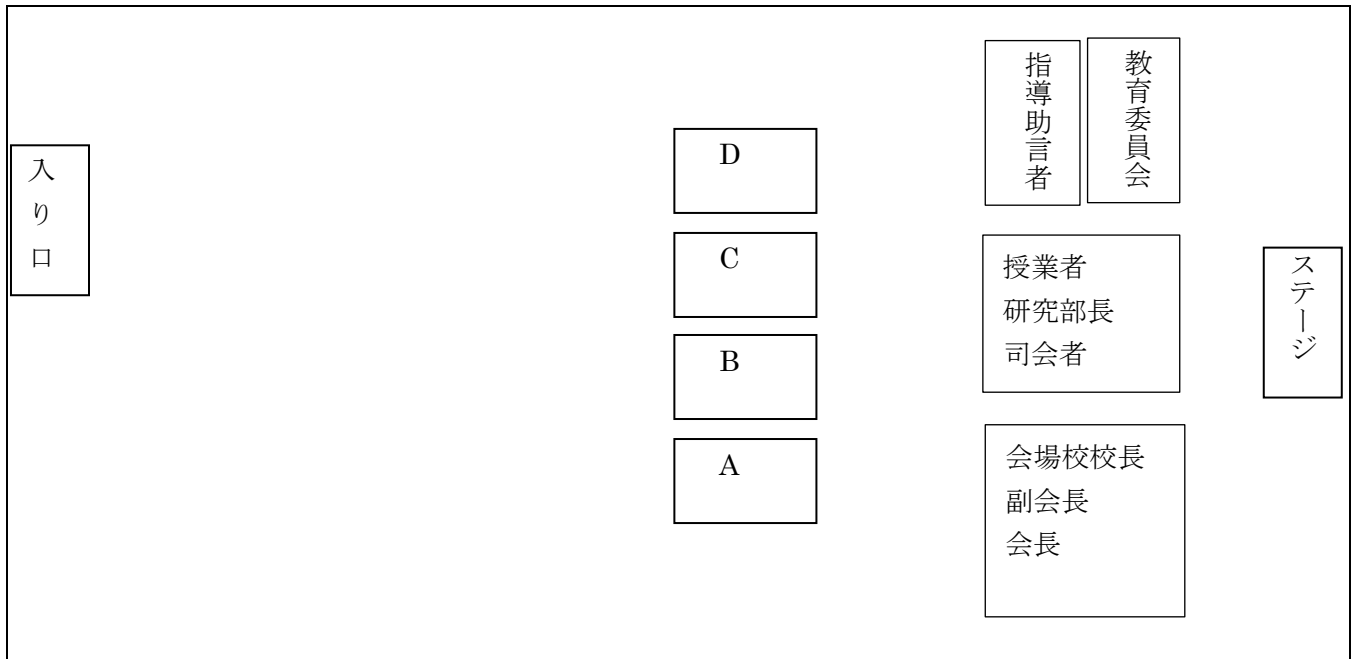
## 4 グループ協議の進め方

自己紹介1分 流れ確認1分 協議の柱に沿って協議を行う。

- ① グループごとに座り、簡単に自己紹介をする。(勤務校、名前、一言)  
※ 各グループの司会は各班の班長の先生(受付時に依頼された先生)
- ② 協議用紙(A3の用紙2枚×2セット)に、協議の柱から成果と課題について付箋を貼りながら、意見を出し合っていく。話し合いながら、同じキーワード・カテゴリーで分ける。
- ③ 質疑応答は、協議の最中に授業者・指導助言者がテーブルを周っている際に随時行う。
- ⑤ グループ協議終了後、他のグループを見て回る時間を6分程度とる。  
※ グループ協議で話し合ったことをもとに、ワールドカフェ方式で説明する。  
※ 発表者3名を選んでおく。
- ⑥ 最後に指導助言をしていただく。
- ⑦ グループ協議後にグループで話し合った資料については、研究協議後に写真撮影する。



## 5 会場図



## 授業研究会 会次第

- 一、指導助言者紹介
- 二、協議方法説明
- 三、授業者ふりかえり
- 四、グループ協議 質疑応答
  - 柱1 カリキュラム・マネジメントの工夫
    - ・ ゲームや運動を通して、児童が主体的に活動できる指導と評価の計画となっていたか。
  - 柱2 指導方法の工夫
    - ・ 運動が苦手な児童に対して、適切な手立てがとられていたか。
  - 協議内容の交流
  - グループ発表
- 五、指導助言
  - 堀内 潤一郎指導主事

## 小学校部会 アンケート（タグラグビー）

### 1 視点説明

- 研究内容や12年間のつながりなど、大変わかりやすかった。
- カリキュラム・マネジメントなど県全体に広められると思うので、活用したい。
- 県の主題に沿った丁寧な研究をされているなど感じた。先生方の実態や子供たちの実態に合わせた研究になっており、非常に勉強になった。「動きの視覚化」「ワークシート」「動きの高まり」等、勉強になった。
- 県の内容と、地区の内容がそれぞれ分かれていたので、違いが理解しやすかった。
- 視点が明確だったので、授業を見やすかった。
- 端的で非常にわかりやすかった。

### 2 授業発表：「4年：タグラグビー」

- 指導案検討時には ICT 活用について、イメージしづらい点はあったが、今日見てみると有効的に使われており、これからの学習に活用したいと思った。
- タブレットが導入されていて、活用の仕方が難しい中、動画、撮影、ジャムボードでの作戦、ワークシートを使われていてすごいなと思いました。
- どの授業においても ICT を活用した実践で大変勉強になった。
- タブレットの活用や音楽の導入など様々なことが学べた。
- タブレットを使った学習、ワークシートも参考にしたいと思った。
- 体育の授業では、タブレットをあまり活用できていなかったため、非常に参考になった。4年生の活用を見ながら自分も、もっとタブレットを活用していこうと思った。
- これからの授業で求められる ICT 化をどう体育で活用していけばよいのかを学ぶことができた。
- 主体的、評価、運動量確保など考えることが多い中で、わかりやすい評価規準の一覧や主体的な活動を促す様々な工夫等、実際に活用していこうと思った。
- 子供たちが生き生きとしていた。セルフジャッジでもしっかりゲームが成り立っていて日ごろの学級経営のすばらしさを感じました。
- 子供たちの主体的な活動がとても素晴らしかった。
- 楽しそうに子どもたちが学習しており、いいなと思った。
- タグラグビーを初めて経験する子どもたちとは思えない動きで驚いた。
- 児童が主体的に活動している姿が見られ、自分の学校でも実施してみたいと思える授業だった。
- 先生のきめ細やかな準備や子供への言葉掛け、また、子ども達が生き生きと授業を楽しんでいる様子を見ることができ、大変勉強になりました。
- 子供の主体性がみられる、素晴らしい授業だった。
- 私も3年生を担当した際に、タグラグビーをしたことがあったが、良い競技とは思うものの、指導が難しいと感じていた。運動が苦手そうな子も生き生きとしゲームをしている姿を見て本当にすごいなと思った。先生の授業、学級づくりを生かしていきたいと思う。
- 実際に授業を参観できたことがよかった。リモートだったらと考えたら、やはり体育は難しいので、これからも授業参観を行っていただきたいと思った。
- これまでの指導も勉強したいなと思った
- タグラグビーの経験がなかったので、とても勉強になりました。
- 指導が子供に届いていたことが素晴らしかった。
- 事前研より、児童の高まりを感じる事ができた。
- 授業を通して考えていくべき課題を自分の授業と照らし合わせながら深めていくことができた有意義な時間だった。
- 活動量が非常に多い授業だった。作戦の捉え方は、大人と子供で違うのだと思った。個人の技術技能から、チームとしての作戦にシフトチェンジできるような指導の仕方を考えていきたいと感じた。
- 各グループで出し合った意見をより多くの児童が共有できるようにすると学習内容がより定着できると感じた。
- タブレットの研修、指導、タイミングなどこれからの課題だと思う。
- 子どもの動きがよかった。本時の学びは何かははっきりするとなお良いように思った。

### 3 授業研究会

- 単元全体を通して、段階的に指導・評価することの大変さを感じた。今後に生かしていきたい。
- これからの体育の時間のめあて、まとめ、タスクゲームなど、しっかり考えて展開したい。
- 先生方の考えを聞き、自分のクラスならどのように生かせるのか、特別支援の子どもたちにどうサポートすればよいのか、考えを深めることができた。
- 様々な意見があり、たくさんの先生方と交流ができたこともよかった。
- 様々な視点からの協議ができたのでよかった。勉強になった。
- いろいろな先生方に出会うことができてありがたかった。
- 宮内先生の講評も勉強になった。
- 今求められている体育の授業方法などを多くの先生方からうかがうことができ、大変勉強になった。
  
- 色分けした付箋を活用し、良かった点、課題等が明確だった。
- 付箋があったので、活発な意見交換がなされた。
- 4～5人の設定がとてもよかった。
- 柱の設定が話しやすかった。
- ワールドカフェ方式で、発表1分、質疑1分が少し、短く感じた。
- タイムスケジュールでは難しかったが、他のグループの意見を聞く時間がもう少し欲しかった。ただ、自分のグループでは考えを深められたので、今後に生かしていきたいと思う。

## 小学校部会 アンケート（体づくり運動）

### 1 視点説明

- わかりやすい説明で、その視点をもとに考えることができた。
- 今までの取り組みが分かりやすかったし、授業の視点が明確だったので、目的をもって授業を参観することができた。
- スライドが見えやすく授業発表前に参観する視点が分かりやすかった。
- 掲示物等、視点が分かりやすく、参観者にとってもわかりやすかった。

### 2 授業発表：「5年：体づくり運動」

- ワークシートでは、文字だけでなくイラストで表現できるように工夫されていたのがよかったです。
- 子供たち自身が授業の流れを理解し、次々に自分から行動している姿が素晴らしいと思った。グループの雰囲気も温かく苦手な子も取り組みやすいただろうと思った。毎時間の積み重ねが見える一時間でした。
- 組み合わせの動きの授業の進め方には多くの配慮が必要だと感じた。
- 子供たちは一生懸命で、自分が何をすべきかを理解して授業を受けていた子が多いように感じた。
- 各グループの仲もよかったように思えた。
- 児童が意欲的に活動していた。
- アンケートをもとに、班編成を行うなど、とても勉強になった。
- 先生の指示がよく伝わっていた。
- 大人数の指導の在り方、ボール運動に対する指導方法が自分の中で、明確になった。とても貴重な授業を見させていただいた。
- 事前研より高まりを感じた。
- 体づくり運動の指導の難しさを感じた。
- グループ間の交流があるとよかった。

### 4 授業研究会

- 授業のポイントについては、課題もあるという意見もあったが、子供たちがしっかり活動していたことは素晴らしかった。
- 体づくり運動は器械運動や陸上運動のように「こんな動きが求められる」という明確なゴールがない（のかなと勝手に思っています）ので、教師側がしっかりと単元でのゴールイメージを持っておく必要があると思った。
- 様々な視点での意見交換ができてよかった。
- 先生方のご意見をとても多く聞くことができた。今後の指導に生かしていきたい。
- ICTの活用について、改めて考えることができた。
- グループ協議をした後、他のグループを回って発表させていただき、そこで先生方と交流することで、新たな気づきが生まれてとても有意義な時間になった。
- 議論内容を共有できてよかった。
- グループ発表の時間がもう少し欲しかった。
- 実際に、教師側も運動を体験してみてもよいかもしれない。

授業の様子①(第4学年 ゴール型ゲーム:タグラグビー)



ゲーム(試合)の様子



タブレット PC での撮影



個人の評価(フィードバック)



作戦シート(jamboard)の活用



個別(グループ別)指導



タブレット PC を活用した学習カード

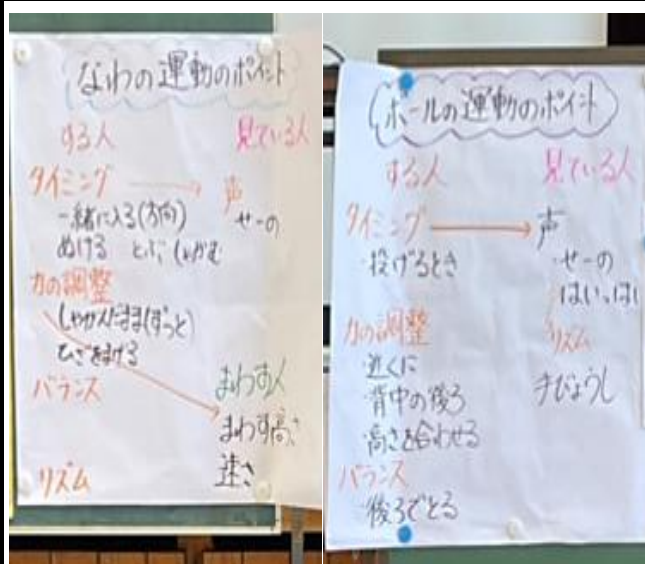
## 授業の様子②(第5学年 体の動きを高める運動)



「基になる動き」の確認



動きのポイントの確認



掲示資料(動きのポイント)



ボールと大縄を組み合わせた運動



タブレットPCでの撮影



話し合い(動画の比較)

# 研究発表・授業研究会の様子①(第4学年 ゴール型ゲーム:タグラグビー)



研究発表(宮崎県の研究)



授業者振り返り



授業者への助言



グループ協議



全体協議



指導講評(宮内教授)

## 授業研究会の様子②(第5学年 体の動きを高める運動)



研究発表(都城・三股地区の研究)



授業者振り返り



質疑・応答



グループ協議



協議内容の発表(ワールドカフェ方式)



指導講評(堀内指導主事)